

## 日本コンクリート診断士会（25-3）理事会 議事録

1. 開催月日：平成 25 年 5 月 28 日 11:30～13:50
2. 開催場所：相互半蔵門ビル地下 1 階 アイニンファンファン会議室

### 3. 資料

- (1) 第 4 回定時総会時間工程・役割分担（案）
- (2) 個人年会費変更についての提案（事務局）
- (3) 福井県コンクリート診断士会のご意見
- (4) 石川県コンクリート診断士会のご意見
- (5) 福井・石川県診断士会のご意見に対する幹事会の意見
- (6) 理事会メンバーからのご意見
- (7) 法人会員リスト
- (8) 各地区診断士会別会員数の比較（奈良理事より）

### 4. 出席者

林会長，小野副会長，佐藤副会長，田澤理事（途中退席），石川理事，奥田理事，有本理事，奈良理事，長谷川理事，名倉理事，井田理事，日堂理事，原田理事，竹内理事，毎田，上原監事，伊藤監事，（甲斐大分診断士会事務局長，後藤大分診断士会監事，星野幹事，篠川幹事）  
（かっこ内は理事会メンバー外）

### 5. 議事

#### 5-1 第 4 回定時総会の時間工程と役割分担について

資料（1）により時間工程，役割分担について検討し，了承された。

#### 5-2 会費値上げについて

（小野副会長）・今回の総会での年会費改定の提案は見送ったが、来年度は議案としてあげたいと考えている。

- ・現在の事務局の活動はボランティアと、事務局所在会社から年間約 50 万円の補助で成り立っているのが現状である。
- ・当会の活動を活発化させるためにも、その核となる事務局を維持するために値上げをする必要がある。
- ・値上げ額は現状の 500 円から 1,000 円へ上げたい。

（日堂理事）・会費の値上げより、会員であるメリットを示すことが必要ではないか。

- ・長野県診断士会の年会費は 3,000 円であるが、年々診断士会の人気は低下している。（のでそれ以上年会費を上げることはできない）

（小野副会長）・JCDは個人会員が基本であり、各診断士会で入会しているわけではなく個人で入会を選択している。

- ・JCDと各診断士会は基本的には独立したものである。

- ・ J C Dの会費を各支部の会費から出すか、値上げするかは各支部の判断である。
  - ・ 東京コンクリート診断士会の業務は、事務局所在会社の事務が管理の部分サポートしている。
  - ・ J C Dは法人組織なので事務処理が煩雑になっており、ボランティアでは対応できない業務が多くある（各支部は任意団体であるが J C Dは法人格である）。
  - ・ 年会費の 500 円アップだけでは J C Dの活動をフォローするには十分ではない。
- (伊藤監事)・新潟では診断士会の会員が増えている。NHKからの取材も受けている（6月放映予定）。診断士の必要性が高まっている。
- ・ 会費が高い安いは中身による。どうあるべきかを考える必要がある。
  - ・ 会員の理解を得るには時間が必要である。
- (石川理事)・事務局の充実や法人組織であるというのはあくまで手段である。あらためて、JCDは何をするのか、何をすべきなのかを示し、地区の診断士会と JCD の役割分担を明確にすべきである。
- ・ 地区（支部）主体でよいのではないか。事務局は現状のような個人相手では大変なので、連合会方式を検討すべきである。
  - ・ 地区のないところのサポート（受け皿）になっていない。
- (奥田理事)・目的が見えてこないのではなく、作り上げていくことが必要である。
- ・ J C Dは個人と法人との集まりであり、地区活動を主体として、全国的なつながりが必要と考えている。石川県診断士会では設立時は数名 JCD に入会していなかったが、現在では全員が JCD 会員である。
- (長谷川理事)・京滋では入会にあたり保証人を 2 名必要としている。
- ・ 本部に入ったら支部に入るということでは不都合が起こる。
  - ・ その会員が問題を生じたら本部が責任をとっていただきたい。
- (奥田理事)・ J C Dへの入会は個人の自由である。手続きを支部で行うという考えである。
- (林会長)・ J C Dの役割をきちんと整理する必要がある。
- ・ 何をめざすのか議論する場がなかった。
  - ・ 会費を値上げしたら会員が少なくなるのは好ましくない。
  - ・ 種々の問題を議論・解決するために定例的に理事会を開催したほうが良い。
- (小野副会長)・ J C Dは何かあったときに相談できるプラットフォーム的な場所としたい。診断士のレベル向上も図れる場としたい。
- (奈良理事)・ J C Dは地区会員が JCD 会員となるかは個人の自由となっていると言われるが、青森診断士会では地区会員 = J C D会員となっている。
- ・ J C Dの会費をあげる場合は、青森診断士会の会費もあげる。
  - ・ 入会が個人の自由を強調しすぎるのはよくないと思う。
  - ・ 法人にこだわる必要はなく、他の方法も考えられるのではないか。
  - ・ 500 円から 1000 円の 2 倍の値上げは大きすぎるのではないか。
  - ・ いくら上げるのが適切かを検討する必要がある。
  - ・ 各地区の会員を増やす必要がある。そうすれば会費が増える。
- (小野副会長)・ボランティアの部分があるとはいえ、事務局の活動に見合う費用が払えない状

況や事務局所在会社に負荷がかかっている状況を健全化したい。

- (名倉理事) ・ J C D の組織が強くなると診断士の地位が向上しない。
- (小野副会長) ・ 地区と本部ではやるのが違う。診断士の地位向上が必要である。
- (名倉理事) ・ 地位向上には J C D の旗振りが必要である。
- (星野幹事) ・ J C D の業務内容は個人や小さな会社では対応できない。  
・ 今後インフラドックなどの活動は重要で、その活動を進めていくには J C D が必要である。
- (毎田) ・ インフラドックのパネルディスカッションで感じたことは、診断士はまだまだ認知されておらず、役所の認識が低いということである。  
・ 現状で事務局活動は事務局所在会社に何から何まで世話になっている。収支の健全化が必要である。  
・ メリットのある活動ができていないということは申し訳ない。メリットのある活動をしていくためにも事務局の充実が必要である。  
・ 個人会費は事業費の  $1/3 \sim 1/4$  を賄っているだけである。皆で知恵を出して考えていきたい。
- (伊藤監事) ・ インフラドックを進めれば診断士の地位向上につながりそうである。その情報を発信してほしい。
- (星野幹事) ・ ナショナルセンターが必要である。
- (有本理事) ・ 鳥取県診断士会は個人会員の年会費は 2,000 円で、法人会員の会費で成り立っている。法人会員は発注者における診断士の活用を願っている。  
・ 鳥取県診断士会としては、年会費を上げることは問題ない。
- (星野幹事) ・ 山口方式というものがある。施工時の管理を充実させようとしている。  
・ 地方組織の立上げに手助けする必要がある。
- (毎田) ・ 講習会で国交省の人から維持管理に費用をかけられない、担当者がいない自治体が多いという話を聞いた。  
・ 今後益々維持管理関連の発注業務の発注増加が予想され、発注者からも診断士の技術が求められる。  
・ 類似資格もあるが、資格の重要性は発注者も認識している。
- (竹内理事) ・ 東海は J C D ができるので地区診断士会を立ち上げた。  
・ 事務経費の不足での値上げはがっかりであり、活動を充実するための値上げなら考えられる。  
・ 今回の値上げだけで不十分ならば、また値上げになってしまう。それでは地区に説明できない。  
・ 長期ビジョンに立った、何年後にはどのような活動をするのか、必要な予算はいくらになるかを示す必要があるのではないか。
- (小野副会長) ・ 今回値上げできれば 3 年ぐらいは値上げ不要である。
- (毎田) ・ 現時点で長期的活動と値上げの予測を示すのは難しい面がある。
- (小野副会長) ・ 月 20 万円  $\times$  12 か月 = 240 万円の経費が必要であるが、収入が 190 万円しかないので、その差額 50 万円を負担する値上げが必要と考えている。
- (原田理事) ・ 高知県診断士会では 2000 円の年会費から 500 円を出している。

- ・財源を講習会等で稼いでいる。財源確保が必要である。
- (林会長) ・理事同士の会話を増やすことが必要ではないか。当会のビジョンを創るのは理事の役割である。理事会を活発に開催し、そこで議論していくことが重要である。
- (小野副会長) ・行動規範は遵守する必要がある。
  - ・ J C Dの定款により名簿の管理を行っている。
  - ・ 診断士受験対策講座には遠方からの参加者も多く、 J C Dで開催していくことも必要である。各地区のセミナーは、地区診断士会主体で開催すればよいと思われる。
- (石川理事) ・役割分担を明確にすることは理事会での議論が必要である。
- (奥田理事) ・管理にかかる費用の低減として各地区への振り分けも考えられる。
  - ・ 管理費としてどのような費用があるのか。
- (小野副会長) ・会員管理は地区診断士会が管理しているものを本部は統一化しているだけだが、地区会の名簿が不統一のため、煩わしい業務となっている。会員管理は定款で定められているので、事務局の業務として今後も実施しなければならない業務のひとつである。
- (奥田理事) ・事務局経費が多いのは間違いないので、事務局経費を抑えることが活動を充実させることになる。
- (星野幹事) ・ J C DのHPはゼネコンでも注目している。
- (名倉理事) ・空白地区に診断士会を設立することが会員増につながる。
- (日堂理事) ・コンクリート診断士の受験者が診断士会を知らない。広報が必要ではないか。
- (奈良理事) ・「各地区診断士会別会員数の比較」資料が奈良理事から配布され、それぞれのテリトリー内の診断士資格者数に対し、診断士会の会員数比率が低いところがあり、今後会員数増加に努力すべきであることの説明があった。
- (毎田) ・名刺に「日本コンクリート診断士会 会員」の名称を入れてPRしてほしい。
  - ・ 総会では理事会において会費値上げの議論をしたことを報告する。
- (小野副会長) ・ボランティアを中心に活動しているが、それでも事務局の人件費はかかっている。
  - ・ この場は決める場ではないので持ち帰って各地区で検討してほしい。
  - ・ 各地区で検討して頂き、さらに理事会として議論して貰いたいと考えている。
  - ・ J C Dのあり方や方向性も考えてほしい。

(以上)